

牧師所感： 日本障がい者詩人 水野 源三

先々週 2 月 18 日掲載の週報に、韓国の パク ソゴン牧師をご紹介した。朴先生は幼い時から 小児麻痺を患って 御自分の人生に絶望した。ところが キリストを伝えられ、キリスト者になられて、老齢に至るまで 韓国 釜山市で 障がい者を対象に 牧会を始めて 今日に至る。

教会は 釜山市の “美門教会” である。2017 年に 当 八街グレイス教会 創立 16 年記念 礼拝の主講師として 招聘した。然るに 朴先生は 同じ障がい者・日本人の 水野 源三氏の 詩を こよなく愛した。ところで もし 日本の教会で招いてくれる幸運があれば、必ず 水野 源三氏の生家を訪ねたいと 念願していたらしい。幸い 日本の千葉の 八街グレイス教会で招かれ 念願が叶えられた。集会が終わったところで 牧師は 是非 水野 源三氏の生家を訪問したいと 願い出られた。

さて 私はその願いを叶えてあげる為、車を運転して 水野 源三詩人の生家までお連れした。ところが 朴牧師は 水野詩人の教会、生家、墓地まで くまなく見学して 望みが叶ったと言って 御夫妻（奥さんは詩人）共に喜ばれた。

ここまで 日本の障がい者クリスチャンの中に、詩を通して、キリストを愛した人は稀である。ところが 源三氏の母親の苦労を忘れてはならない。源三氏の母堂様が 壁につるされた “あいうえ” の字を指さし、源三氏が目をパチリと合図して詩を作った経緯を忘れてはならない。

ここに 水野 源三氏の詩を 数編 掲載する。

人々の中に ― 病める友に ―

傷ついた少年が

主イエス様が 愛のまなざしで

激しい激しい戦火に 家を焼かれ

見つめられ ちかづかれ

父母を失い 兄姉とはぐれ

話しかけられ

傷ついた少年が そまつなベッドで

その御手をさしのべられた

ロケット弾におびえ 何を祈るか

人々の中に 私もおり

天のお父様 今年こそは今年こそは

戦いの終わりを 今年こそは今年こそは

ベトナムに平和を

おわりに 私共は、水野詩人が願ったように、ロシアとウクライナ、イスラエルとハマスに 平和を祈ります。